

令和 3 年度 宇都宮市立平石北小学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画，網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す児童像含む）

(1) 基本目標

心身ともに健康で、自ら考え主体的に行動し、徳・知・体の調和のとれた人間性豊かでたくましく生きる児童を育成する。

～ 心ゆたかで かしく たくましく ～

(2) 具体目標

- ・思いやりがあり協力し合える子（心ゆたかで）
- ・進んで学び自ら考える子（かしく）
- ・心と体をきたえる子（たくましく）

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

— 楽しく「学び」・勇気をもって「チャレンジし」・みんなで「支え合う」活気ある学校経営の推進 —

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

(1) 目指す学校の姿（本校の使命） 「活気あふれる地域の学校」

- ①夢や意欲がもてる学校
- ②心豊かで思いやりのある児童が育つ学校
- ③互いの個性やチャレンジを認め合える学校
- ④保護者・地域から信頼され魅力のある学校

(2) 目指す教職員像

- ①自己のキャリアを高めようとする意識の高い教職員
- ②人間性・社会性豊かで信頼される教職員（学校スタッフとの連携）
- ③学校組織の一員として学びあい、協働し支え合う教職員

(3) 「平北プロジェクト」（本校教育の重点）の策定と全教職員による実践推進

[鬼怒地域学校園教育ビジョン]

自分でよく考え 未来に向かって たくましく生きる子供の育成

4 教育課程編成の方針

社会に開かれた教育編成のため、カリキュラムマネジメントの視点から、一貫性、相互関連性のある教育課程・各種年間指導計画を作成し、教育活動を展開する

- ① 各教科の教育内容を相互関係でとらえ、教育横断的な視点で内容を組織的に配列する
- ② 子供たちの姿や地域の現状に基づき、教育課程を PDCA サイクルで実施改善する
- ③ 小規模校の特性を生かし、教育内容と地域等の外部も含めた人的・物的な資源を効果的に組み合わせる。（各種ボランティア・平北ファーム・高齢者との交流活動等）

5 今年度の重点目標（短期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

【 学 校 運 営 】

- ・学校マネジメントシステムを生かした活気あふれる地域の学校づくりの推進
- ・育てたい児童の姿を明確にした教育活動の充実
- ・勤務の効率化を意識した働き方の推進
- ・教職員一人一人のキャリアアップと高い同僚性を十分に生かした組織力の向上

【 学 習 指 導 】

- ・「安心して考えを伝え合い、互いに高め合える学級集団の育成」～I want to～ のある授業を目指して～

【 児 童 生 徒 指 導 】

- ・互いを認め合い、思いやりの心を育むとともに、時と場に応じたあいさつができる児童の育成

【健康（体力・保健・食・安全）】

- ・自ら進んで安全な生活を送り、心と身体の健康づくりに取り組む児童の育成

6 自己評価（評価項目のAは市共通，Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
目 指 す 児 童 の 姿	<p>A1 児童は、進んで学習に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 「児童は、授業中、話をしっかりと聞いたり、発表したりするなど進んで学習に取り組んでいる」 ⇒児童、教職員、保護者対象 肯定的回答85%以上</p>	<p>① 「校長先生からの挑戦状」やレンジャーシール、学習コーナーなどの活用を見直し、さらに児童の学習意欲を高める。</p> <p>② コロナ禍の中でも可能で多様な学習形態を取り入れ、言語活動を生かした表現の場を設ける。</p>	B	<p>【達成状況】 教職員100 保護者88 児童87 ・全ての対象で、目標値を上回った。</p> <p>【次年度の方針】 ・「校長先生からの挑戦状」やレンジャーシールを活用し、学習への動機付けや好奇心をかき立て、賞賛や激励により達成感を実感できる場面を作る。 ・児童の学習意欲が向上し、授業のねらいが達成できるよう「目当ての提示・振り返る活動」を適切に位置付ける。</p>
	<p>A2 児童は、思いやりの心をもっている。</p> <p>【数値指標】 「誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している」 ⇒各対象 肯定的回答85%以上</p>	<p>① 道徳や学級活動の授業の中で、親切や思いやりについて考え、話し合う場を設ける。</p> <p>② なかよし班活動などの異学年活動を通し、上級生は一層の自覚が生まれ、下級生は上級生に対する憧れの気持ちがもてるような取組を行う。</p>	B	<p>【達成状況】 教職員100 保護者91 地域住民94 児童88 ・全ての対象で、目標値を上回った。</p> <p>【次年度の方針】 ・道徳や学級活動の授業を通して、親切や思いやりについて話し合う活動を取り入れる。 ・なかよし班活動などの異学年交流活動を通して、互いを思いやる気持ちを育てる。</p>
	<p>A3 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。</p> <p>【数値指標】 「児童は、きまりやマナーを守って生活している」 ⇒各対象 肯定的回答85%以上</p>	<p>① 「ひらきたよい子の一日」を、児童の実態に合わせて見直し、全職員で共通理解する。</p> <p>② 「ひらきたよい子の一日」の振り返りを行い、児童の頑張りを認めていく。</p> <p>③ 帰りの会において、生活目標の振り返りやよい行いを認め合う場を設定する。</p>	B	<p>【達成状況】 教職員100 保護者93 地域住民100 児童89 ・全ての対象で、目標値を上回った。</p> <p>【次年度の方針】 ・「ひらきたよい子の一日」を全職員で共通理解をして指導にあたり、児童に振り返りをさせたりする。 ・帰りの会において、生活目標の振り返りやよい行いを認め合う場を設定する。 ・毎日、下校時刻になったら音楽を流し、時間を守ることへの意識を高められるようにする。</p>
	<p>A4 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。</p> <p>【数値指標】 「児童は、時と場に応じたあいさつをしている」 ⇒各対象 肯定的回答80%以上</p>	<p>① クラス単位で「さわやかあいさつ運動」を実施し、学校園あいさつ運動も取り組んでいく。</p> <p>② 各種たよりや学級懇談会、HP等であいさつに関する取組を家庭に知らせ、児童が時と場に応じたあいさつができるよう、家庭と協力できるようにする。</p> <p>③ レンジャーシールを活用し、児童の取組を認め、称賛する。</p>	B	<p>【達成状況】 教職員87 保護者74 地域住民94 児童93 ・保護者以外の対象で、目標値を上回った。</p> <p>【次年度の方針】 ・クラス単位で「さわやかあいさつ運動」を実施し、学校園あいさつ運動も取り組んでいく。 ・各種たよりや学級懇談会、HP等であいさつに関する取組を家庭に知らせ、児童が時と場に応じたあいさつができるよう、家庭と協力できるようにする。 ・児童会が中心となって、あいさつの啓発に取り組む。</p>

<p>A5 児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 「夢や目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる」 ⇒児童、教職員、保護者対象 肯定的回答80%以上</p>	<p>① 持久走記録会やなわとび検定では、カードの活用を図り、達成感を味わう機会を作る。</p> <p>② 「校長先生からの挑戦状」を活用し、児童の行いを認め称賛することで、目標に向けて粘り強く取り組めるようにする。</p>	<p>【達成状況】 教職員80 保護者67 児童84</p> <p>・保護者以外の対象で、目標値を上回った。</p> <p>【次年度の方針】 ・プールや持久走、なわとびの学習において、検定カード等の活用を図り、達成感を味わう機会を作る。</p> <p>・「校長先生からの挑戦状」を活用し、児童の行いを認め称賛することで、目標に向けて粘り強く取り組めるようにする。</p> <p>・「平北小のたくましい子」、HP等で保護者へ児童の頑張りを伝え、称賛してもらうことで、児童の達成感を高める。</p>
<p>A6 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。</p> <p>【数値指標】 「健康や安全に気を付けて生活している」 ⇒各対象 肯定的回答90%以上</p>	<p>① 児童が健康・食育・安全を意識しながら生活できるよう場面に応じた具体的な指導を継続して実施する。</p> <p>② 定期健康診断や各行事等を状況に応じて計画的に実施するとともに、コロナ等の感染対策をしながら体験活動を通じた健康・食育・安全教育に取り組む。</p> <p>③ 随時、各種たよりや学級懇談会、HPなどで情報の発信・提供を行うなど、保護者への啓発活動を継続する。</p>	<p>【達成状況】 教職員100 保護者89 地域住民94 児童95</p> <p>・全ての対象で、ほぼ目標値を上回った。</p> <p>【次年度の方針】 ・児童が健康・安全に気を付けながら生活できるよう、場面に応じて継続的に指導する。</p> <p>・感染症対策等の指導をしている様子を、各種便りやHPなどで、保護者に発信・提供するなど、保護者への啓発活動を継続する。</p> <p>・立哨や、下校指導を継続的にを行い、児童が安全に登下校できるよう指導する。また、保護者と情報を共有し、協力して安全に登下校できるようにする。</p>
<p>A7 児童は、夢や目標をもって、社会に貢献できるよう努力している。</p> <p>【数値指標】 「夢や目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる」 ⇒児童、教職員、保護者対象 肯定的回答80%以上 【再掲 A5】</p>	<p>① 家庭や地域との連携による体験学習や出前授業を取り入れ、児童が夢や目標を持てるように、働くことの大切さや喜びを実感させる教育活動を展開する。</p> <p>② 地域協議会と連携した「生き方講演会」の実施や宮・未来キャリア教育の充実を図るために各教科や特別活動、道徳等との関連を図り、年計への位置づけを行うとともに、キャリアパスポートの有効活用を図る。</p> <p>③ 各種たより、HP、学校公開等の機会を通し、教育活動を積極的に発信する。</p>	<p>【達成状況】 教職員80 保護者67 児童84</p> <p>・保護者以外の対象で、目標値を上回った。</p> <p>【次年度の方針】 ・年度当初、キャリアパスポートに「今年の夢」を記入し、意識化を図る。また、家庭や地域との連携による体験学習や出前授業を取り入れ、働くことの大切さや喜びを実感させる教育活動を展開する。</p> <p>・地域協議会と連携した「生き方講演会」の実施や宮・未来キャリア教育の充実を図るために各教科や特別活動、道徳等との関連を図り、年計への位置づけを行うとともに、キャリアパスポートの有効活用を図る。</p> <p>・各種たより、HP、学校公開等の機会を通し、教育活動を積極的に発信する。また、連絡帳等に振り返りを記入し、学校の様子が保護者に伝わるようにする。</p>
<p>A8 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。</p> <p>【数値指標】 「児童は、外国語の授業やALTとの交流の際に、英語を使ってコミュニケーションをしている。」 ⇒児童、教職員対象 肯定的回答率85%以上</p>	<p>① 担任や担当者がALTと十分に打合せを行ったり、教材研究を行ったりして、進んでコミュニケーションを図ろうとする授業づくりを行う。</p> <p>② 状況に応じ、ALTとの給食や昼休みのALTによる読み聞かせやゲーム、他授業などの交流を通して、学校生活で英語を使う機会を設ける。</p>	<p>【達成状況】 教職員100 児童85</p> <p>・全ての対象で、目標値を上回った。</p> <p>【次年度の方針】 ・児童が「英語で伝えたい」と思えるような必要性のある場面を設定する。</p> <p>・教職員や児童からのアイデアを募り、更にALTのコーナーを活用する。</p>

<p>A9 児童は、宇都宮の良さを知っている。</p> <p>【数値指標】 「児童は、宇都宮の良さを知っている」 ⇒児童、教職員、保護者対象 肯定的回答率80%以上</p>	<p>① 生活科や総合的な学習の時間の年計において自校化を図り、平石地区や宇都宮市を教材とした学習を展開する。</p> <p>② 地域の情報を収集し、HPや各種たよりに掲載して情報を発信するとともに、地域の良さを実感できるような児童や保護者の地域活動を推進する。</p>	<p>【達成状況】 教職員80 保護者45 児童79 ・教職員の対象のみ、目標値を上回った。</p> <p>【次年度の方針】 ・地域の情報を収集し、HPや各種たよりに掲載して情報を発信するとともに、出前講座などを活用し、地域の良さを実感できるような活動を保護者に広く周知する。 ・生活科や総合的な学習の時間の年計において自校化を図り、平石地区や宇都宮市を教材とした学習を展開したり、授業における「宇都宮学」指導方法を工夫したりする。</p>
<p>A10 児童は、パソコンや図書等を学習に活用している。</p> <p>【数値指標】 「ICT機器や図書等を学習に活用している」 ⇒児童、教職員、保護者対象 肯定的回答率80%以上</p>	<p>① 児童がコンピュータや情報機器ネットワークなどの情報手段に親しみ、適切に活用する能力を育成できるよう、授業において積極的にICT機器を活用する。</p> <p>② 各学年の授業内容の関連に配慮した教育図書の整備充実等、学校図書館の環境整備に努める。</p> <p>③ GIGAスクール構想の取組を随時HPや各種たよりで発信していく。</p>	<p>【達成状況】 教職員100 保護者84 児童85 ・全ての対象で、目標値を上回った。</p> <p>【次年度の方針】 ・単元に関する図書やパソコンを使った学習を授業で取り入れるとともに、HPや各種おたよりによる発信の仕方を工夫する。 ・引き続き、積極的に授業においてパソコンを活用し、適切に活用する能力を育成する。 ・図書を活用した学習を年計に自校化し、指導の充実を図る。</p>
<p>A11 児童は、高齢者に対する感謝やいたわりの心をもっている。</p> <p>【数値指標】 「誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している」 ⇒各対象 肯定的回答85%以上 【再掲 A2】</p>	<p>① 「感謝の会」の準備・本番を通して、感謝やいたわりの気持ちを実感できるようにする。</p> <p>② 花壇ボランティアと作業を一緒に行うなど、高齢者と触れ合う場面を増やす。</p> <p>③ 3年総合的な学習の時間における、高砂荘交流、1・2年生活科の時間における、むかし遊び交流等を継続して実施する。</p>	<p>【達成状況】 教職員100 保護者91 地域住民94 児童88 ・全ての対象で、目標値を上回った。</p> <p>【次年度の方針】 ・「感謝の会」を通して、感謝やいたわりの気持ちを実感できるようにする。 ・花壇ボランティアと作業を一緒に行うなど、高齢者と触れ合う場面を増やす。 ・3年総合的な学習の時間における、高砂荘交流、1・2年生活科の時間における、むかし遊び交流等を継続して実施する。</p>
<p>A12 児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。</p> <p>【数値指標】 「環境問題や防災等の『持続可能な社会』について、関心をもっている」 ⇒児童、教職員対象 肯定的回答率80%以上</p>	<p>① 総合的な学習の時間や学級活動、道徳等を通して、環境問題について考え、日常生活に生かすようにする。</p> <p>② 学校農園活動や親子ふれあい作業等を通して、「持続可能な社会」について、考える機会をもつ。</p>	<p>【達成状況】 教職員67 児童85 ・児童のみ、目標値を上回った。</p> <p>【次年度の方針】 ・SDGsの趣旨等を踏まえて、児童の日常生活に関連した身近な内容を取り上げながら、これまでの学校の取組と関連付けて指導をしていく。 ・授業の中で特に重点的に取り扱ったり、児童会を活用したりするなど、自主的で工夫した活動を行い、実践力を培っていくようにする。</p>

	<p>B1 児童は正しい言葉づかいをしている。</p> <p>【数値指標】 「児童は、時と場に応じた言葉づかいをしている」 ⇒各対象 肯定的回答80%以上</p>	<p>① 道徳や学級活動で言葉づかいについて考え、話し合う場を設け、児童のよい行いを称賛したりする。</p> <p>② 各種たよりや学級懇談会、HP等で学校での取組を伝え、家庭でも言葉づかいについて考える機会をもってもらうようにする。</p> <p>③ 生活目標に「正しい言葉づかい」を位置づける。</p>	<p>B</p> <p>【達成状況】 教職員87 保護者72 地域住民100 児童83</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者以外の対象で、目標値を上回った。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道徳や学級活動で言葉づかいについて考え、話し合う場を設け、児童のよい行いを称賛したりする。 ・各種たよりや学級懇談会、HP等で学校での取組を伝え、家庭でも言葉づかいについて考える機会をもってもらうようにする。 ・生活目標や「校長先生の挑戦状」で言葉づかいについて目標を示し、児童の意識を高める。
	<p>A13 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。</p> <p>【数値指標】 「特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている」 ⇒教職員対象 肯定的回答率90%以上</p>	<p>① 今後も特別な支援を必要とする児童の教育的ニーズに応じた支援を行っていく。</p> <p>② 必要に応じ外部機関との連携を図ったり、特別支援学級担任の専門的な知見を教職員で共有したりして、特別な支援を必要とする児童への支援の方法について研修を行う。</p>	<p>B</p> <p>【達成状況】 教職員100</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標値を上回った。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後も特別な支援を必要とする児童の教育的ニーズに応じた支援を行っていく。 ・必要に応じ外部機関との連携を図ったり、特別支援学級担任の専門的な知見を教職員で共有したりして、特別な支援を必要とする児童への支援の方法について研修を行う。
<p>目 指 す 学 校 の 姿</p>	<p>A14 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。</p> <p>【数値指標】 「学校は、いじめ対策に熱心に取り組んでいる」 ⇒各対象 肯定的回答80%以上</p>	<p>① いじめゼロ強調月間に合わせて道徳の授業を継続して実施する。</p> <p>② いじめゼロに関するアンケート・標語・名札の着用等を通じて意識の向上を図る。</p> <p>③ 児童会や平北レンジャーと連携し、いじめゼロ運動を計画的に実施する。</p> <p>④ 各種たよりや学級懇談会、HP等で児童の取組を発信していく。</p>	<p>B</p> <p>【達成状況】 教職員100 保護者80 地域住民100 児童96</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全ての対象で、目標値を上回った。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いじめゼロ強調月間に合わせて道徳の授業を継続して実施する。 ・いじめゼロに関するアンケート・標語・名札の着用等を通じて意識の向上を図る。 ・児童会や平北レンジャーと連携し、いじめゼロ運動を計画的に実施する。 ・各種たよりや学級懇談会、HP等で児童の取組を発信していく
	<p>A15 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。</p> <p>【数値指標】 「教職員は、一人一人を大切に、児童がともに認め励まし合う学級経営を行っている」 ⇒児童、教職員、保護者対象 肯定的回答90%以上</p>	<p>① 児童指導情報交換会やいじめ等対策委員会(不登校対策含)、ケース会議等で児童の様子についての共通理解を図り、対応策を検討していく。</p> <p>② SCM及び特別支援コーディネーターを中心に、様々な外部組織とつながった対応を継続して進めていく。</p>	<p>B</p> <p>【達成状況】 教職員100 保護者88 児童97</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者以外の対象で、目標値を上回った。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童指導情報交換会やいじめ等対策委員会(不登校対策含)、ケース会議等で児童の様子についての共通理解を図り、対応策を検討していく。 ・SCM及び特別支援コーディネーターを中心に、様々な外部組織とつながった対応を継続して進めていく。 ・係や当番活動の取組、帰りの会における振り返りなど、児童の活躍の場や認め合う場を設ける。

<p>A16 教職員は、外国人児童生徒等の実態に応じて、適切な支援をしている。</p> <p>【数値指標】 「特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている」 ⇒教職員対象 肯定的回答率90%以上 【再掲 A13】</p>	<p>① 関連機関と連携を図り、該当児童の存在や状況を把握していく。</p> <p>② 校内支援委員会等において、特別な支援を必要とする児童についての共通理解を図り、対応策を検討していく。</p>	<p>【達成状況】 教職員100 ・目標値を上回った。</p> <p>【次年度の方針】 ・関連機関と連携を図り、該当児童の存在や状況を把握していく。 ・校内支援委員会等において、特別な支援を必要とする児童についての共通理解を図り、対応策を検討していく</p>
<p>A17 学校は、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。</p> <p>【数値指標】 「学校全体に活気があり、明るくいいきとした雰囲気である」 ⇒各対象 肯定的回答90%以上</p>	<p>① 児童会と平北レンジャーが連携し、計画的に活動を実施する。</p> <p>② 各種たよりや学級懇談会、HP等を活用し、クラスの様子や学校での活動の様子を積極的に発信していく。</p>	<p>【達成状況】 教職員100 保護者90 地域住民100 児童88 ・児童以外の対象で、目標値を上回った。</p> <p>【次年度の方針】 ・児童会や平北レンジャー、委員会活動など、児童が中心になって活躍できる場を設定していく。 ・各種たよりや学級懇談会、HP等を活用し、クラスの様子や学校での活動の様子を積極的に発信していく。 ・各クラスでの共遊やなかよし班活動などの異学年交流を行っていく。</p>
<p>A18 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。</p> <p>【数値指標】 「教職員は、児童一人一人が理解できるように教材研究を工夫するなど、きめ細かな指導をしている。」 ⇒児童・教職員・保護者対象 肯定的回答90%以上</p>	<p>① 算数において、TTや少人数・習熟度別学習による分かる授業を展開する。</p> <p>② 朝の学習において全学級に担任外の職員が支援に入る体制をつくるなど、個に応じた指導の充実を図る。</p> <p>③ 校内研修サポート事業や要請訪問、一人一授業などの校内研修や日々の教材研究を通し、教員の授業力を高めていく。</p> <p>④ HPや学年だよりで授業の様子を紹介したり、授業参観や学級懇談会等で児童の学びについて伝えたりしていく。</p>	<p>【達成状況】 教職員100 保護者86 児童97 ・保護者以外の対象で、目標値を上回った。</p> <p>【次年度の方針】 ・HPや学年だよりで授業の様子を紹介したり、授業参観や学級懇談会等で児童の学びについて伝えたりしていく。 ・算数における習熟度別学習やTTの実施、全学級TTによる朝の学習の実施など、個に応じた指導の充実を図ることで、基礎・基本の定着を図る。 ・学力調査等の結果を基に、学校課題と関連する課題を設定し、学校全体で課題設定に取り組む。</p>
<p>A19 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 「学校に関わる職員全員チームとなり、協力して業務に取り組んでいる」 ⇒教職員対象 肯定的回答90%以上</p>	<p>① PDCAサイクルによる学校行事精選や校務分掌の見直しを図る。</p> <p>② 教職員の多様な専門性を活かし、役割分担を明確にすることで、効率的な業務遂行を目指す。</p>	<p>【達成状況】 教職員93 ・目標値を上回った。</p> <p>【次年度の方針】 ・PDCAサイクルによる学校行事精選や行事内容のスリム化、校務分掌の見直しを図る。 ・教職員の多様な専門性を活かし、役割分担を明確にすることで、効率的な業務遂行を目指す。</p>

<p>A20 学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 「学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる」 ⇒教職員対象 肯定的回答90%以上</p>	<p>① 学校支援スタッフとの連携を充実させていく。</p> <p>② 学校行事の反省、教育課程の振り返りなどを通し、学校運営の見直しや行事の実施方法の改善を行う。</p>	<p>【達成状況】 教職員80 ・目標値を下回った。</p> <p>【次年度の方針】 ・学校支援スタッフとの連携を充実させていく。また、学校行事の反省、教育課程の振り返りなどを通し、学校運営の見直しや行事の実施方法の改善を行う。 ・勤務の効率化を図るための研修を位置づけ、勤務内容の洗い出しを行い、効率化、削減方法を話し合う。 ・終齢を鳴らし、勤務時間を意識するとともに、業務の改善を行う。</p>
<p>A21 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。</p> <p>【数値指標】 「学校は、小学校と中学校が連携した取組を行っている」 ⇒各対象 肯定的回答80%以上</p>	<p>○①コロナ禍における学校園での取組について検証し、児童・生徒間の交流、各部・分科会での教職員の交流を図る。</p> <p>○②小中一貫教育・地域学校園における取り組みについて、各種たよりやHP、校内掲示等で積極的に発信する。</p>	<p>【達成状況】 教職員93 保護者78 地域住民100 児童94 ・保護者以外の対象で、目標値を上回った。</p> <p>【次年度の方針】 ・コロナ禍における学校園での取組について検証し、児童・生徒間の交流、各部・分科会での教職員の交流を図る。 ・小中一貫教育・地域学校園における取り組みについて、各種たよりやHP、校内掲示等で積極的に発信する。</p>
<p>A22 学校は、地域の教育力を生かした特色ある教育活動を展開している。</p> <p>【数値指標】 「学校は、家庭・地域・企業等と連携して、教育活動や学校運営の充実を図っている」 ⇒各対象 肯定的回答85%以上</p>	<p>① コロナ禍で可能な活動を検証しながら、地域協議会、まちづくり協議会との連携を強化し、ボランティア活用の活性化を図る。</p> <p>② 学校支援ボランティアや地域の大学・企業・施設の活用を年計に位置づける。</p>	<p>【達成状況】 教職員100 保護者86 地域住民100 児童88 ・全ての対象で、目標値を上回った。</p> <p>【次年度の方針】 ・コロナ禍で可能な活動を検証しながら、地域協議会、まちづくり協議会との連携を強化し、ボランティア活用の活性化を図る。 ・学校支援ボランティアや地域の大学・企業・施設の活用を年計に位置づける。</p>
<p>A23 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、よりよい児童の育成に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 「学校は、家庭・地域・企業等と連携して、教育活動や学校運営の充実を図っている」 ⇒各対象 肯定的回答85%以上 【再掲 A22】</p>	<p>① 地域やPTAとの連携をさらに推進し、地域に根差した特色ある学校づくりを目指す。</p> <p>② 地域コーディネーターを窓口とした学校支援ボランティアの活用を推進する。</p> <p>③ 各種便り、HP等により教育活動を積極的に発信する。</p>	<p>【達成状況】 教職員100 保護者86 地域住民100 児童88 ・全ての対象で、目標値を上回った。</p> <p>【次年度の方針】 ・地域やPTAとの連携をさらに推進し、地域に根差した特色ある学校づくりを目指す。 ・地域コーディネーターを窓口とした学校支援ボランティアの活用を推進する。 ・各種便り、HP等により教育活動を積極的に発信する。</p>

<p>A24 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。</p> <p>【数値指標】 「学校は、利用者の安全に配慮した環境づくりに努めている」 ⇒教職員、保護者、地域対象 肯定的回答90%以上</p>	<p>① 学校の取組などを各種たよりやHP等により、家庭や地域へ積極的に発信する。</p> <p>② 毎月の安全点検の実施により、危険箇所の周知を図り修繕箇所への迅速な対応に取り組む。</p> <p>③ 台風や雷雨等、気象災害への迅速な対応とメール配信時の開封確認の徹底により、保護者への確実な情報提供を行う。</p>	<p>【達成状況】 教職員100 保護者90 地域住民100 ・全ての対象で、目標値を上回った。</p> <p>【次年度の方針】 ・委員会活動や朝の除草等、学校の取組を各種たよりやHP等により、家庭や地域へ積極的に発信する。 ・毎月の安全点検の実施により、危険箇所の周知を図り、修繕箇所への迅速な対応に取り組む。 ・熱中症警戒アラート発令時、雷雨などの気象災害への迅速な対応と、メール配信時の開封確認の徹底により、保護者への確実な情報提供を行う。</p>
<p>A25 学校は、学習に必要なICT機器や図書等を整えている。</p> <p>【数値指標】 「ICT機器や図書等を学習に活用している」 ⇒児童・教職員・保護者対象 肯定的回答80%以上 【再掲 A10】</p>	<p>① 学級文庫の充実やICT機器の整備を図る。</p> <p>② ICT機器や図書を活用した授業に関しての研修の場を設ける。</p> <p>③ 各種たよりやHP等で、ICT機器や図書を活用した授業の様子を発信したり、授業参観等において、ICT機器や図書を活用した授業を実践したりする。</p>	<p>【達成状況】 教職員100 保護者84 児童85 ・全ての対象で、目標値を上回った。</p> <p>【次年度の方針】 ・各学年の学習内容に関連した図書やICT機器の整備・充実を図る。 ・各種たよりやHP等で、ICT機器や図書を活用した授業の様子を発信したり、授業参観等において、ICT機器や図書を活用した授業を実践したりする。</p>
<p>B2 学校マネジメントシステムを生かし、コロナ禍に対応した教育活動の継続的な改善に努めている。</p> <p>【数値指標】 「保護者や地域住民の建設的な意見を学級経営や授業改善に生かそうとしている」 ⇒教職員対象 肯定的回答90%以上</p>	<p>① 教職員による評価や学校公開のアンケート等を活用し、教育活動の改善に努める。</p> <p>② 校内評価委員会やプロジェクトチーム等を活用し、教育活動の改善に努める。</p>	<p>【達成状況】 教職員93 保護者98 ・全ての対象で、目標値を上回った。</p> <p>【次年度の方針】 ・教職員による評価や学校公開のアンケート等を活用し、教育活動の改善に努める。 ・校内評価委員会やプロジェクトチーム等を活用し、その都度改善点を洗い出し、教育活動の改善に努める。</p>
<p>本校の特色・課題等</p> <p>B3 いろいろな分野の本をたくさん読み、読書への関心や読み取る力の育成に努めている。</p> <p>【数値指標】 「児童は、進んで読書に取り組んでいる」 ⇒教職員、保護者、児童対象 肯定的回答80%以上</p>	<p>① 学校図書館司書と連携・協力して図書館のさらなる活用を図る。</p> <p>② 図書室のイベントや家読などの取組を継続しつつ、今年度もHPや各種たよりでさらに発信していく。</p> <p>③ 家庭での読書量が増えるよう、週末の宿題などでの家読を継続して実施していく。</p>	<p>【達成状況】 教職員100 保護者58 児童76 ・教職員のみ、目標値を上回った。</p> <p>【次年度の方針】 ・図書室のイベントや家読などの取組を継続しつつ、今年度もHPや各種たよりでさらに発信していく。 ・家庭での読書量が増えるよう、週末の宿題などでの家読を継続し、家庭での読書活動を推進する。</p>

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

【目指す児童の姿（評価項目：A1～12）】

- ・ A1～3の学習態度や生活態度に関する項目については、ほぼ全ての対象で数値目標を上回った。引き続き基礎学力向上や基本的な生活習慣の習得を目指した取組を工夫・改善していく。
- ・ A8「外国語の授業やALTとの交流」については、全ての対象で目標値を上回り、児童は積極的に英語を使ってコミュニケーションしている姿が見られるようになってきた。
- ・ A10「ICT機器や図書を活用した学習活動」については、GIGAスクール構想の実現のための一人一台タブレットの導入がなされたことなどから、全ての対象で数値目標を上回った。今後も日常の授業における活用をさらに推進するとともに、図書の活用を含めた取組を広く発信していきたい。
- ・ A4「あいさつや正しい言葉づかい」については、教職員・保護者・児童共に、昨年度より下がっている。実態としてあいさつに元気がなく、立哨指導する保護者や交通指導員からも同様の声が上がっている。コロナ禍でできなかったさわやかあいさつ運動を、保護者や地域と連携して実施していきたい。
- ・ A5「粘り強さ」やA7「夢や目標に向かって努力すること」に関する項目は、教職員・保護者・児童共に、昨年度よりも下がっている。家庭や地域との連携による体験学習や地域協議会と連携した「生き方講演会」の実施や、キャリアパスポートの活用をさらに推進することで、宮・未来キャリア教育の充実を図る必要がある。
- ・ A9「宇都宮の良さ」については、保護者と児童の数値が目標値を下回っている。特に保護者に関しては、昨年度より6.3ポイント下がってしまった。地域資源・人材の活用など地域資源の教材化を図るなど、今年度より実施の宇都宮学のさらなる充実を図るとともに、学校での取組を随時発信していく必要がある。

【目指す学校の姿（評価項目A13～25）】

- ・ A14「いじめ対策」については、全ての対象で目標値を上回り今年度の取組の成果が見られた。今後も引き続き児童会等と連携して取り組んでいきたい。
- ・ A22「特色ある教育活動の展開」及びA23「地域等と連携した教育活動」については、全ての対象で目標値を上回った。今後も、学校の特色を生かし、家庭・地域・企業等と学習内容をリンクさせ、児童にとって実りの多い教育活動を行っていきたい。
- ・ A20「業務の効率化」については、学校行事の見直しや日課表の改善、学校支援スタッフとの連携等、全職員で協力して業務改善に取り組んでいくようにしたい。

【本校の特色・課題等（評価項目：B1～3）】

- ・ B2「コロナ禍に対応した教育活動の改善」については、教職員・保護者ともに数値目標を上回っており、一定の評価を得ることができた。今後も状況に応じた対応を行っていきようにしたい。
- ・ B1「時と場に応じた言葉づかい」は、保護者の回答が数値目標に届いていない。また、教職員や児童の数値も昨年度を下回っている。生活目標に位置付けたり、道徳や学級活動で意図的に取り上げたりしているが、今後は抜本的な改革を含めて、時と場に応じた言葉遣いが身に付くよう手立てを講じて取り組んでいく。
- ・ B3「いろいろな分野の本を読んでいる」の保護者数値が低く、昨年度よりも3.8ポイント下がり、60%を切ってしまった。「家庭内で我が子が本を読む姿」を見る機会が少ないことが、一因と考えられる。図書室で借りた本の扱いを見直し、図書室のイベントや家読などの取組を継続しながら、学校図書館司書と連携・協力して読書活動の支援を工夫していきたい。

7 学校関係者評価

【目指す児童の姿（評価項目：A1～12）】

- ・ A1 授業を参観させてもらおうと、学習態度や生活態度がとても良いことに気付かされる。タブレットを活用しながら熱心に勉強している児童が多いと感じる。
- ・ 児童は元気で健やかに学校生活を過ごしているように感じる。
- ・ HPを見て、子供たちが明るく元気に、そして一人一人が活躍できる場面が見られ、うれしく思う。初代の平北レンジャーは我が子だったので、当時は誇らしく思っていた。子どもの良い所を引き出してくれる平北小に感謝。
- ・ A4 あいさつに元気がない。保護者・地域の大人もあいさつを自然と元気よく交わしているかというところではないと感じる。普段の生活から大人が率先して目と目を合わせてあいさつする模範が必要と改めて感じる。
- ・ A7 夢や希望に向かって努力するという項目には、今後も身近な地域の方から講演者を推薦できるよう努力したい。
- ・ A9 宇都宮の良さとは何か？目的を明確にし、「平石」の歴史を主体に宇都宮の変遷、歴史・名所旧跡、観光産業等を目標として構築したらどうか。例えば、平出工業団地はなぜつくられたのか？地域への効果は？など。
- ・ A10 授業でPCの「google スライド」を使用し、ネットから情報を探してまとめ発表する取組はとても良い環境だと思

う。社会に出た際、自ら考え伝える能力「プレゼン力」は、とても重要な課題だと思うため、今後もPCを活用した授業や発表の場を増やしてほしい。

- ・A12 SDGs（持続可能な社会）について、学校生活や日常生活の身近な課題からの指導が重要。教職員は気負わず、教育レベルを児童目線で評価することが必要と考える。（評価が自分に厳しいのでは？）

【目指す学校の姿（評価項目A13～25）】

- ・A14・A21・A23 学校はいじめ対策、中学校や地域社会との連携等多様な対応が求められ、厳しい学校運営に迫られていると外部からは伺える。可能な限りできる範囲で地域資源を活用するよう、地域協議会においても学校運営の方向性を議論する場として、また支援機能の充実を図る必要性を感じる。
- ・A24 気象災害等の迅速なメール配信や情報提供は分かりやすく良いと思う。
- ・保護者の肯定回答率が多数の項目で基準値を下回っている。学校からの情報は各種媒体を通じて発信しているとのことだが、保護者はどのような媒体で情報を取り込んでいるのかが不明確。発信媒体と取り込む媒体について調査（例：アンケート）し、しっかり情報が届いているのかを明らかにすることが重要ではないか。
- ・今後も幼小の接続をしっかりと行い、小学校へ行ってもスムーズに生活できるよう園としての役割を果たしていきたいので、様々な活動に参加・協力していきたい。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

【目指す児童の姿】

- ・夢や希望に向かって努力するという項目に関しては、年度当初、キャリアパスポートに「今年の夢」を記入し、意識化を図るとともに、キャリアパスポートは学校と家庭の往復をこまめにし、情報の共有化を図る。また、家庭や地域との連携による体験学習や出前授業を取り入れ、働くことの大切さや喜びを実感させる教育活動を展開していく。
- ・「宇都宮の良さ」を常に意識させ、地域人材・資源を生かした「宇都宮学」の学習を展開し、郷土愛の醸成を図る。
- ・SDGs（持続可能な社会）については、身近な生活の中からの意識付けからしっかりと行っていく。

【目指す学校の姿】

- ・「いじめ対策」や「特色ある教育活動の展開」など、取組を継続して行くとともに、デジタルとアナログをうまく使い分けて、保護者や地域社会に情報発信をしていく。
- ・「業務の効率化」については、次年度に向けて日課表の変更や行事の精選等を行っているため、その効果を検証していく。

【本校の特色・課題等】

- ・明るい挨拶や正しい言葉遣いについては、コロナの状況を考慮しながら、家庭や地域との連携を密にし、日頃から日常的に指導をしていく。
- ・「いろいろな分野の本を読んでいる」に関しては、図書室で借りた本の扱いを見直し、家でも図書室の本を楽しめる環境をつくっていく。